

ニューヨーク天理文化協会の活動と展開

1991年2月、ニューヨーク社会との接点としてニューヨーク天理文化協会 (Tenrikyo Cultural Institute、以下 TCI) が設立された。TCI は、文化活動を行っている非営利団体である。文化を理解し、文化的な調和と文化的コミュニティ形成を目指して、日本語教室、ギャラリー、コンサートなどの活動を行っている。TCI の位置するグリニッジ・ヴィレッジは芸術家、作家などの文化人が多く集まり、また大学も近くにあるなど、文化活動を行うのに適した場所となっている。以下、主な活動をみていく。

日本語学校

1991年の設立以来、日本語学校は、TCIの主要な活動として運営されている。日本語学校設置の背景には、1980年代の日本語ブームがあり、また日米の政治的・経済的な影響も大きかった。大人クラスは、平日の夜間と随時週末に行われている。生徒は、ヨーロッパ、アジア、中東、中南米などさまざまな国の人々である。またニューヨーク社会の多様性を反映して、その職業も学生、会社員、画家、音楽家、弁護士、モデル、国連スタッフなどとなっている。開講以来、現在までに2,000人以上が受講し、近年では常に100人ほどの学生が学んでいる。

2016年に行われた受講生へのアンケート結果によると、日本語を学ぶ理由としては、日本文化への興味、日本人とのコミュニケーション・スキルを身につける、日本への旅行、仕事・職探しなどが上位を占めていた。日本人とのコミュニケーション・スキルを身につけると答えた人は、配偶者や家族が日本人や日系人である場合が多かった。また日本について興味があるものとして、上位にあがったものは文化、食べ物、マンガ・アニメなどであり、他にファッション、芸術、建築などニューヨーク社会を反映していると思われるような事柄も興味の対象としてあがっている。

日本語教育の新たな活動として、2002年には子供のクラスが開講され、以来外国語としての日本語教育と日本人子弟のための国語教育の2つが行われている。現在100人以上の子供たちが学んでいる。多くの子供たちが日本語を学ぶ背景には、日本のアニメやゲームの流行にあいまって、日本語に関心を持ち、学習を希望する子供が増えてきていること、またニューヨークに在住する日本人の子弟への日本語教育への需要の高まりなどがあげられる。

ギャラリー

TCIの1階のオープン・スペースは、ギャラリーとして展示会に利用されている。現在では年間10回以上の展示会が開催され、プロからアマチュアまで多様な芸術家により、絵画や彫刻などが展示されている。開設から最初の10年ほどは、広告や人的ネットワークなどさまざまな手段を通じて展示を行うアーティストを探していたが、近年では口コミで存在が知られるようになり、積極的なプロモーションをせずとも、ギャラリー利用の問い合わせなどが増えている。ニューヨーク日本人美術協会主催の展示会など、定期的に開催されているものもある。

近年、ロシアや台湾などの美術館による展示会も開催された。

来場者は展示会の内容によりさまざまであり、一般のアメリカ市民の来場はもとより、日本人関係の展示の場合には日系人、日系企業、日本国総領事館の関係者が、またロシア関係の展示には、ロシア人や在ニューヨークロシア大使館の関係者などが来館するなどの特徴がみられる。

パフォーマンス・アート

現在、年間100回以上のコンサートやパフォーマンスが行われている。クラシック音楽が主流であるが、ジャズ、ニューミュージック、また雅楽などの邦楽の演奏会も行われている。ギャラリーでの展示と同様に、アマチュアや若い芸術家の発表の場としても活用されている。近隣の大学も定期的にコンサートを行っている。多くの音楽家が集まるニューヨークでは、若い人々の発表の場が少なく、TCIでは社会貢献の一環として現地の要望に応じている。また音楽における新しい試みも行われており、クラリネット演奏を軸とした「和シリーズ」ではフェイスブックのストーリーミングを活用して世界中へ演奏を発信している。

パフォーマンス・アートも多様なアーティストにより行われている。定期的に開催されるものの一つに、日本の伝統芸能への理解を深めてもらうことを趣旨とした「さろんシリーズ」があり、日本の舞踏、演劇、音楽などが公演され、質疑応答や意見交換フォーラムなども行われている。TCIは『Time Out New York』などのニューヨーク現地誌にもギャラリー・コンサート会場として紹介されており、ニューヨーク社会の文化活動施設としてその存在は定着している。

他団体との交流、インターンシップなど

TCIでは、設立当初から地域社会や他団体との交流を進めており、コロンビア大学、ニューヨーク大学、国際交流基金、アジアソサエティなどとさまざまな形での協力関係を構築している。2005年に開催された『ニューヨーク移民歴史週間』では、日本文化として「バレエと和太鼓」のパフォーマンスを行い、期間中にニューヨーク市長公邸にTCIスタッフが招待され市長と面談するなど、ニューヨーク市との関係を深めるきっかけとなった。

また、日系人会や県人会の会合などでも利用されている。近年では、青森県人会による「青森ウィーク」という催し物で、ねぶた、篠笛の演奏や物産展が行われ、年配の日系人によって開催された「コミュニティ・カフェ」では、在住40～50年という人々が集まり交流を深めた。ニューヨーク在住の人々や学生などに、ボランティアやインターンの機会も提供している。

さらに天理大学との学術提携、多摩産業大学交遊会による展示会、東京芸術大学による芸術ウィーク、フランスの天理日仏文化協会など、他国の大学や文化施設との協力関係も構築している。2010年に結ばれた天理大学との学術提携により、留学生の相互受け入れを開始し、天理大学生をインターンとして受け入れている。またTCIの日本語教室の学生が、夏期休暇の時期に日本を訪れ、天理大学の夏期日本語講座で学び、他国からの学生との交流を行っている。日本語教育に長い歴史を持つ天理日仏文化協会からは、ニューヨークに日本語教師が来訪し、TCIでの短期日本語教師養成講座の講師などをつとめている。